

# 当院新病院の建築予定地で中国・戦国期の 青銅製のやじり鍬が日本国内で初めて出土

平成28年春に完成を目指している新病院の建築予定地（岡山市北区国体町）は、南方遺跡と呼ばれている埋蔵文化財包蔵地の一部であり、文化財保護法に基づき、工事前に岡山市教育委員会による発掘調査が行われています。

南方遺跡は、弥生時代の吉備地域を代表する拠点集落の一つであり、精巧な漆塗り木器、近畿や九州産の土器など、特殊な遺物の大量出土で知られる重要遺跡ですが、今回、中国の戦国時代（紀元前5～4世紀）に鑄造された青銅製の鍬（やじり）が出土されました。双翼式銅鍬（そうよくしきどうぞく）と呼ばれる日本国内では初めて確認されたタイプで、大陸文化にいち早く接した古代吉備の先進性を示す極めて重要な発見だとのこと。古代中国でも希少なタイプで、朝鮮半島にも出土例がないようです。

ちなみに、この遺跡調査費用はすべて病院負担になります。

南方遺跡で出土した  
中国製双翼式銅鍬



平成25年1月24日の  
山陽新聞1ページより転載  
(山陽新聞社に許可を  
いただいています)